

東北大学大学院歯学研究科 インターフェイス口腔健康科学 第62回学術フォーラム

Forum for Interface Oral Health Science

インプラントの光機能化：骨結合新時代 におけるインプラントの科学と臨床

小川 隆広 先生

UCLA 歯学部先端補綴学・ワイントロープセンター終身教授
骨・インプラントサイエンス研究チーム (LBIS) ディレクター

平成24年11月13日 (火) 17:00～19:00

歯学部大会議室(C棟1階)

抄録：近年、UCLAの我々のチームにより発見されたチタンの生物学的老化(バイオロジカルエイジング)とそれを克服するための光機能化技術の開発の成功は世界中に大きな衝撃を与え、インプラント治療は歴史的な転機を迎えました。チタンのエイジングの発見によって、現状では、「いつもすべての患者に同等な能力のインプラントが提供できているかどうか？」を問う大きな懸念が露呈されました。光機能化技術は、そのエイジングしたインプラントを元の状態まで回復させ、さらには、その骨結合能をこれまでにないレベルにまで飛躍的に向上させることが実証されています。古く骨結合能力の低下したインプラントの使用を避ける再生技術と考えることができます。また、これまでの表面技術と異なり、チタンインプラントであれば、テストされたサーフェスすべて、種類を問わず骨結合能を大きく増加させることが示されています。つまり、インプラントの世界標準化を可能にする技術です。この技術は、国内外で多くのメディアに取り上げられ、それに対する大きな期待が、歯科の学生、さらには一般国民レベルにまで広まりつつあります。また、インプラントのサーフェスとして初めて、明らかに他のサーフェスよりも優れていることが、ヨーロッパの国家教育指導要綱に明記されました。インプラント臨床はすでに新時代に入っていることを、歴史上かつてない量と質の基礎科学と臨床科学のエビデンスをご紹介しながらお話できればと思っています。そしてみなさまとディスカッションすることができればとても幸いです。

第62回モデレーター：小山重人、佐藤奈央子（顎顔面口腔再建治療部）